

フットボールアソシエーションの初期の歴史について

The Early History of the Football Association

秦 修 司

Shuji HATA

緒 言

グレーム (R. G. Graham)¹⁾によると1860年、フットボールの人気は広くひろがっているにかかわらず、大学とパブリックスクールを除いて、ディングレイデル (Dingley Dell) とクルセーダーズ (Crusaders) の2つのクラブしか一流の試合をしておらず、1862年のフィールド紙にはフットボールのゲームについてはほとんど記述されなかった。又、フットボールの関心の大きさは、今やナショナルゲームとして競い合っているクリケットに劣ることはないにもかかわらずフットボールのゲームを楽しむ何千何万もの人々のそのほとんどが男性的スポーツであるフットボールの発展の可能性を追求した人々について知識がないとしている。

フットボールを発展させたその栄誉が与えられなければならないのはフットボールアソシエーションの創始者たちであり、フットボールアソシエーション創始初期の従事者たちであったのは確かであるが、フットボールアソシエーションの開始、そしてその発展についての小史が興味あるところである。そこでここでは、フットボールアソシエーションが設立され、発展し、確固たる地位を築くまでについてその状況を明らかにするものである。

本 論

1863年10月26日、ロンドンとその近郊のいくつかのフットボールのクラブのキャプテンや他

の代表者が集まり、ロンドンのグリーンティーンストリートでのフリーメイソンズタバーンにおいて会議が開催された。その目的はフットボールのゲームを規制するための共通の競技規則を定める目的を持ったアソシエーションの設立にあった。

その会議には多数の代表者が集まったがチャターハウス校のキャプテンであるハートショーン (B. F. Hartshorne) を除いてパブリックスクールの代表を欠いた。出席したクラブは次のとおりであった。

Club	Represented by
N. N. Kilburn	A. Pember
Barnes	E. C. Morley and P. P. Gregory
W. O. War Office	E. Wawn
Crusaders	H. T. Steward
Forest, Leytonstone	J. F. Alcock and A. W. Mackenzie
Percival House, Blackheath	G. W. Shillingford
Crystal Palace	F. Day
Blackheath	F. H. Moore and F. W. Campbell
Kensington School	W. J. Mackintosh
Surbiton	H. Bell
Blackheath Proprietary School	W. H. Gordon

ペンバー (A. Pember) を議長にとのモーレ

イ (E. C. Morley) による提案がマッケンジー (A. W. Mackenzie) によって支持され、承認された。次に、この会議に代表を出したクラブがフットボールアソシエーションと称する協会を形成するというのがモーレイによって提案され、承認された。そこですぐにすでに名を示された11のクラブが創始のメンバーとして登録された。引き続き役員の選出があり、会長にペンバー、事務局長にモーレイ、会計にキャンベル (F. W. Campbell) が決定した。

モーレイがフットボールアソシエーションの設立についての提案を述べた時、彼は代表を出すのをすべての者が望んでいたパブリックスクールについて言及した。会議にパブリックスクールが出席しなかったのは提案された会議が公表されなかったこと、もしくはパブリックスクール側のある種の沈黙そしてパブリックスクールがイニシアティブを取れなかったことによる。

クラブの登録に及んだ時、チャターハウス校のハートショーンは登録しなかった。彼がとった態度は共通の競技規則の作成は極めて望ましいけれども、諸々のパブリックスクールがそのフットボールアソシエーション設立において際立った役割を果たすべきだというものであり、そして又、その会議に代表を出している唯一のパブリックスクールのチャターハウス校のキャプテンとして彼は他のパブリックスクールの態度がその問題において明らかになるまで現在ではどんな行動方針をとることはできないというものであった。

従って、事務局長のモーレイがラグビー、ハーロー、ウィンチェスター、イートン、マールバラ、チェルテンハムなどの様々なパブリックスクールへ、彼等の意見や助言が効果があると考えられたので、アソシエーションへの協力を求める文書を出すことになった。1863年11月10日、第2回目の会議が同じ場所で開催され、フットボールアソシエーションの初代会長のペンバーが議長を務めた。まず、モーレイとハーロ

ー校、チャターハウス校、そしてウエストミンスター校のキャプテンとの書簡文が読みあげられたが、これらはアソシエーションにとって励みになるものではなかった。ハーロー校、チャターハウス校そしてウエストミンスター校はアソシエーションへの加盟に熱心でなかったにしても少なくとも返答は行った。ラグビー校、イートン校、そしてウィンチェスター校からはまったく返答がなかった。しかしながら彼等の態度は少しも意外なことではなかった。というのは諸々のパブリックスクールが彼等の習慣や伝統を容易に捨て去ることがないのは明らかであったからである。モーレイによって、諸々のパブリックスクールがそれら様々な競技規則を破棄するよう説得するのに成功するのを期待するものでなく、諸々のパブリックスクールが互いに試合を行う目的で、そしてその時設立されていた多くのクラブのいくつかとゲームを取り決めることができるようアソシエーションの競技規則を採択するのを期待したことが指摘された。

アソシエーションの規約が最初に公式化されたのはこの第2回目の会議においてであったが、それらは印刷のうえ公表されることが決定された。

1. That the Association be called 'The Football Association'.
2. That all clubs of one year's standing be eligible for Membership.
3. That the subscription for each Club be £1 ls. per annum, payable in advance.
4. That the Officers be a President, a Treasurer, and a Secretary, with a Committee comprising the before-mentioned officers and four other members. Five to form a quorum.
5. That the Officers be elected at the Annual Meeting by a majority of the representatives of the Clubs present,

the retiring officers to be eligible for re-election.

6. That the Annual be held in the last week of September in each year, at such place and time as shall be appointed by the Committee.
7. That each Club be entitled to send two representatives to all Meetings of the Association.
8. That in the event of any alternation being deemed necessary in the rules of the laws established by the Association, notice shall be sent in writing to the Secretary of the proposed alternation on or before the 1st of September in each year; and the terms of the proposed alternation shall be advertised in such sporting news papers as the Committee may direct, at least 14 days prior to the Annual Meeting.
9. That each Club shall forward to the Secretary a statement of its distinguishing colours or costume.²⁾

アソシエーションの規約が決定したので次の仕事は競技自体の規則の枠組作りになったが、次のことに注目が向いた。

- (a) グラウンドの長さ；グラウンドの幅
- (b) ゴールの幅；ゴールポストの高さ
- (c) バー又はテープを張るべきか
- (d) ゴールがなされたと考えられる時

次にゲームを開始する方法に注目が向いた。

(i) $\frac{1}{2}$ 又は $\frac{1}{4}$ の距離からのブレスキックによるか

(ii) 中央においてボールのスローアップによるか

(iii) 両タッチラインの間の中央でボールをころがすか又は他の方法によってか
そして続いて次のことに注目が向いた。

オフサイド；タッチ；ゴールラインの後

方；ハンドプレー；ハッキング、トリッピング；モーリング；ホールディング；パックス；ルージュ；ボールを持って走ること；フェアキャッチ；チャージング；論争の決定；ブーツ；ボールを投げること；ノッキングオン。

これらのポイントを見れば、フットボールアソシエーションの存在はあったがアソシエーションとラグビーのフットボールの同一特徴を持つ規則はまだ別々の存在としては生じなかったのは明らかであるに違いない。アソシエーション設立の目的はフットボールの1つの題目のもとにすべての様々なプレーの方法の最上そしてより受入れることのできるポイントを包括する競技規則の枠組作りにあった。

1863年11月17日の第3回目の会議において、スリング (J. C. Thring) の影響によるのは疑いが無いが、アピナム校のアソシエーションへの加盟が、そしてリンカーンクラブのアソシエーションへの加盟が文書で表明された。

11月24日、第4回目の会議が開催され、アソシエーション自体の中に最初に不協和音が生じたが、それは提案された競技規則に関することであった。ここでその出来事の正確な成行きを正しく、そしてそれらの完全な意味合いを理解することが重要になる。この会議における出来事が次のように概要される。

(i) 1862年のスリングによるシンプリストゲームと1863年のケンブリッジルールをもとにしたドラフトルールが会議に提出された。

1. The maximum length of the ground shall be 200 yards, its maximum breadth shall be 100 yards, the length and breadth shall be marked off with flags, and its goal shall be defined by two upright posts 8 yards apart, without any tape or bar across them.
2. The game shall be commenced by a

place—kick from the centre of the ground by the side winning the toss ; the other side shall not approach within 10 yards of the ball until it is kicked off. After a goal is won, the losing side shall be entitled to kick off.

3. The two sides shall change goals after each goal is won.
4. A goal shall be won when the ball passes over the space between the goal—posts (at whatever height), not being thrown, knocked on, or carried.
5. When the ball is in touch, the first player who touches it shall kick or throw it from the point on the boundary—line where it left the ground, in a direction at right angles with the boundary—line.
6. A player shall be out of play immediately he is in front of the ball, and must return behind the ball as soon as possible. If the ball is kicked past a player by his own side, he shall not touch or kick it or advance until one of the other side has first kicked it, or one of his own side on a level with or in front of him has been able to kick it.
7. In case the ball goes behind the goal—line, if a player on the side to whom the goal belongs first touches the ball, one of his side shall be entitled to a free kick from the goal—line at the point opposite to the place where the ball shall be touched. If a player of the opposite side first touches the ball, one of his side shall be entitled to a free kick from a point 15 yards outside the goal—line, opposite the place where the ball is touched.
8. If a player makes a fair catch, he shall

be entitled to a free kick, provided he claims it by making a mark with his heel at once ; and in order to take such kick, he may go as far back as he pleases, and no player on the opposite side shall advance beyond his mark until he has kicked.

9. A player shall be entitled to run with the ball towards his adversaries' goal if he makes a fair catch, or catches the ball on the first bound, but in the case of a fair catch, if he makes his mark he shall not then run.
10. If any player shall run with the ball towards his adversaries' goal, any player on the opposite side shall be at liberty to charge, hold, trip, or hack him, or to wrest the ball from him ; but no player shall be held and hacked at the same time.
11. Neither tripping nor hacking shall be allowed, and no player shall use his hands or elbows to hold or push and adversary, except in the case provided for by Law 10.
12. Any player shall be allowed to charge another provided they are both in active play. A player shall be allowed to charge if even he is out of play.
13. A player shall be allowed to throw the ball or pass it to another if he make a fair catch or catches the ball on the first bound.
14. No player shall be allowed to wear projecting nails, iron plates, or gutta—percha on the soles or heels of his boots.³⁾

(ii) 事務局長のモーレイは次に会議の注目をケンブリッジ大学委員会によってゲームの競技規則が起草されたとの新聞の発

表に向け、そしてそのコピーがあったのでそれらが読みあげられた。そこですぐにモーレイにより、それらは熟考の価値があるとの意見が出された。

- (iii) この点において最初の明らかな意見の衝突があった。オルコック (J. F. Alcock) により、「ケンブリッジルールはアソシエーションが採択すべき最も望ましいものである」⁴⁾との提案がなされた。それに対し、キャンベル (F. W. Campbell) はアソシエーションが「採択すべき最も望ましいものである」の語を「熟考する価値がある」⁵⁾に代える提案をした。最終的にモーレイによる「ケンブリッジ大学の競技規則がゲームの本当の原則を最大の簡潔さを持って包括するものである」⁶⁾の修正案が議長の決定投票によって承認された。

そのような公然とした不一致を生じさせたアソシエーションのドラフトルールとケンブリッジ大学の競技規則の決定的な差は何であったか？それはこれらのことであるのは確かである。アソシエーション提案の競技規則の第9条と第10条につぎのようにある。

9. A player shall be entitled to run with the ball towards his adversaries' goal if he makes a fair catch, or catches the ball on the first bound; but in the case of a fair catch if he makes his mark, he shall not run.

10. If any player shall run with the ball towards his adversaries' goal, any on the opposite side shall be at liberty to charge, hold, trip, or hack him, or wrest the ball from him; but no player shall be held and hacked at the same time.

さてケンブリッジ大学の競技規則では running with the ball についてはまったく記述さ

れておらず、チャージングは許されたけれどもホールディング、プッシング・ウィズ・ザ・ハンド、トリッピングそしてシニングは禁止されていた。

1863年12月1日、第5回目の会議においてフットボールアソシエーションの競技規則が採択されたが、長いそして激しい論争がなかった訳ではなかった。次の議論はオリジナルの議事録からのもので、歴史的な理由ばかりでなく最終的にラグビーとアソシエーションのフットボールに分裂した明確な状況を内容として持っている。

オールコック：競技規則全体が提案された第9条と第10条にかかっていると思いますので、ただちにそれらを進めた方がよからうと存じます。それらは次のとおりであります。

第9条 プレーヤーがボールをフェアキャッチするもしくはファーストバウンドでボールをキャッチすれば相手ゴールにボールを持って走ることができる。；しかし、フェアキャッチの場合、マークを宣言すればボールを持って走ることはいできない。

第10条 もしプレーヤーがボールを持って相手ゴールに向かって走るとき、相手のプレーヤーは誰でもそのプレーヤーに対し、チャージング、ホールディング、トリッピング、ハッキング、ボールを奪取してよい。；しかし、プレーヤーは何びとたりともホールディングとハッキングを同時に行ってはならない。

従って私はただちにそれらを進めるべく提案申しあげます。

モーレイ（事務局長）：この2ヶ条の競技規則は実質的にすべての物事に影響を与えようという考えのものはオールコック氏と意見を同じくするものであります。従ってこの2ヶ条をただちに検討する必要があることを強調するものです。ハッキングとラン

ニングはそれ自体にとどまらず、グラウンドの長さ、テープ、ゴールポストの幅そして実際ゲームに関係するすべてのこと等、すべての競技規則に極めて影響を与えますのでゲームの最も重要な事項に関連しているとみなさなければなりません。ハッキングとランニングに関する限り、私は個人的な感情によって申しているのではなく、もし、この競技規則を採択すれば、現在のフットボールクラブの大半は脱会するのは必然であると考えからです。彼等が我々とプレーしないと私が言っているのではなく、彼等が我々とプレーしないのは確かなのです。そして、キャンベル氏自身はブラックヒースクラブはロンドンでは彼等とプレーするクラブを3つも得れないことを充分ご存知で、彼等のメンバーのほとんどが勤労者であり、彼等にとっては自身をいたわることが最も重要なことであります。私自身の立場としても、実を言うと、ハッキングは実際よりは言葉そして名目上、より恐しいものであると考えております。；しかし、私はフットボールのゲームの普及という立場からも絶対に反対します。従って私は心からオールコック氏に意見を同一にするものです。もし、ハッキングを認めるとすれば、14歳に達した者ですらフットボールをすることを嫌い、生徒の間ではやがてフットボールが行われなくなるだろうと憂うのであります。

キャンベル：私は8歳の頃よりフットボールをやっております。私は削除するよう提案された2ヶ条の競技規則については採択することを特に希望いたします。ハーローやイトンでプレーせられるゲームのスキル、そしてラグビー校でプレーせられるゲームに必要な胆力を無視するようなアソシエーションに多くのチームが加盟を拒否するのを恐れているのであります。

ハッキングはフットボールの真髄であります。ウィンチェスター校の記録をご覧になってもわかりますように、負傷のため2人のプレーヤーがフィールドから運び去られ、認められた交代選手によってゲームが終了したことが記されています。しかし、最近になって過去の荒々しいゲームの有様が文明化せられたように感じられます。

ハッキングを好まないと主張するような人々はケンブリッジにおいてそのような競技規則を起草する資格がないと考えるし、また、男らしいフットボールを愛するというより、むしろ、パイプやグロッグやシュナップを好む輩の気風であると私はあえて申しあげます。ハッキングに反対される人々の多くは相当のご年輩になられてからクラブに加盟された方々で、パブリックスクールの気風やその後のパブリックスクールの関係者によって醸成された気風に馴染まれていないからだと考えられます。⁷⁾

以上のような激情をともなった討論が長時間に渡って続けられた。しかし、妥協点が得られず、遂に出席者の各委員によって投票が行われた。その結果、13対4の大差をもって2ヶ条の削除が決定した。モーレイの主張するところの主旨は以上の2ヶ条の競技規則はあまりにも粗暴な行為がともなうので社会人や青少年には適当でないとの健康上からの考慮であった。それに対し、キャンベルの強調する主旨は2ヶ条の競技規則こそフットボールの真の精神を表現するもので、英国の青少年であれば誰も愛好するものであるとの強い信念があった。

フットボールアソシエーションの第6回目の会議が1863年12月8日に開催された。フリーメイソンズタバーンの部屋は石油ランプの影がゆらぎ、昔風の装飾物が順序よく調和して飾られていた。

シルクハットがテーブルの上やコーナーシェルフの上に置かれ、堂々たるその持主を待って

いた。馬車が玄関に横づけになっていた。人々はヴィクトリア朝中期の体面と格式を意識しているし、クリミア戦争に参加した誇りが各人を儀式ばらせていた。そのような雰囲気の中で、ブラックヒースクラブのキャンベルは遂に立上って決別を告げた。キャンベルは採択された競技規則はまったくフットボールを破壊しあらゆる興味を喪失せしめ、この競技規則が存する限り、ベースボールとフットボールとの間の差別観になるとして、ブラックヒースクラブはフットボールアソシエーションから脱会すると宣言した。

アソシエーションによって採択された競技規則は次のような見出しをもって小冊子で公表された。

The London Football Association

President : A. Pember, Esq., Treasurer : F. M. Campbell, Esq. Secretary : E. C. Morley, Esq. Committee : J. F. Alcock, Esq. ; James Turner, Esq. ; E. Wawn, Esq. ; and H. T. Steward, Esq.

Laws of Football Drawn up By the London Association

1. The maximum length of the ground shall be 200 yards, the maximum breadth shall be 100 yards : the length and breadth shall be marked off with flags ; and the goals shall be defined by two upright posts, 8 yards apart, without any tape or bar across them.
2. The winners of the toss shall have the choice of goals. The game shall be commenced by a place-kick from the centre of the ground by the side losing the toss. The other side shall not approach within 10 yards of the ball

until it is kicked off.

3. After a goal is won, the losing side shall kick off, and goals shall be changed.
4. A goal shall be won when the ball passes between the goal-posts or over the space between the goal-posts (at whatever height), not being thrown, knocked on, or carried.
5. When the ball is in touch, the first player who touches it shall throw it from the point on the boundary-line where it left the ground in direction at right angles with the boundary-line, and it shall not be in play until it has touched the ground.
6. When a player has kicked the ball, any one of the same side who is nearer to the opponents' goal-line is out of play and may not touch the ball himself, nor in anyway whatever prevent any other from doing so until the ball has been played ; but no player out of play when the ball is kicked from behind the goal-line.
7. In case the ball goes behind the goal-line, if a player on the side to whom the goal belongs first touches the ball, one of his side shall be entitled to a free kick from the goal-line at the point opposite the place where the ball shall be touched. If a player of the opposite side first touches the ball, one of his side shall be entitled to a free kick (but at the goal only) from a point 15 yards from the goal-line opposite the place where the ball is touched ; the opposing side shall stand behind their goal-line until he has had his kick.

8. If a player makes a fair catch, he shall be entitled to a free kick, provided he claims it by making a mark with his heel at once ; and in order to take such kick he may go as far back as he pleases, and no player on the opposite side shall advance beyond his mark until he has kicked.
9. No player shall carry the ball.
10. Neither tripping nor hacking shall be allowed, and no player shall use his hands to hold or push an adversary.
11. A player shall not throw the ball or pass it to another.
12. No player shall take the ball from the ground with his hands while it is in play under any pretence whatever.
13. No player shall wear projecting nails, iron plates, or gutta-percha on the soles or heels of his boots.⁸⁾

この時、20ほどのクラブがアソシエーション加盟への意向を表明したが、競技規則の第9条と第10条は概してラグビーの信奉者にとってあまりにも徹底的過ぎた。最終的に半数のクラブがアソシエーションから脱会したが、それは極めて落胆させることであった。しかしながら若干のクラブはアソシエーションの競技規則を採択し、彼等クラブの間で試合を取り決め、その競技規則を伝えるためにできる限りの尽力をした。これに最も積極的に加わったのはバーンズ、ワンダラーズ、シビルサービス、ロイヤルエンジニアーズ、キルバーン、クリスタルパレス、そしてシェフィールドなどのフットボールクラブであった。

バーンズクラブはそのメンバーを漕艇の活動領域から得ており極めて強力なクラブであった。バーンズクラブはジョンストン (J. Johnston) が強い関心を持ったクラブで彼の居住地に競技場を設置し、試合や競技スポーツを自由に行わせた。バーンズクラブの競技ス

ポーツはその当時、極めて重要な大会でその出し物はフットボールレースであった。このために走路にロープが張られた。各々のランナーにはロープとロープの間に10フィートあり、足もとにボールを置いてスタートに着いた。走路からはずれることなくボールを最初にウィニングポストを通過させれば、勝利を得た。これによって、オリジナルのオフサイドの競技規則のためにパスを用いたゲームが許される前に極めて研究されたドリブルの技術を向上させることになった。ロープとロープの間をボールを保持して200ヤードをレースのスピードで進んでいくのは容易ではなかった。1867年、バーンズクラブの委員会はスミス (S. Le Blanc Smith), メイ (Frampton May), ウィリス (R. W. Willis), グレアム (R. G. Graham), エリー侯 (the Marquis of Ely) そしてその時フットボールアソシエーションの会長にあったモーレイによって構成された。ハーロー校の卒業生で有能なバックプレーヤーであるオルコックによってリードされたワンダラーズクラブはそのメンバーを主としてパブリックスクールの出身者から得た。チェンバース (H. W. Chambens) とチェスターマン (W. Chesterman) の積極的な支持を得たシェフィールドクラブはロンドンの地区外でアソシエーション加盟への道を拓いた。他のクラブではシビルサービスクラブのカークパトリック (J. Kirkpatrick) とウォウン (E. Wawn), キルバーンクラブのペンバー, そしてクリスタルパレスクラブのカットビル (W. J. C. Cutbill) などがアソシエーションに貴重な援助をなした。しかしながら、あらゆる尽力にもかかわらずフットボールアソシエーション設立の3年後の1866-7年のシーズン初めには次の10のクラブだけがメンバーであった。

Barnes Football Club
Civil Service Football Club
Crystal Palace Football Club
Kensington School Football Club
London Scottish (Rifles) Football Club

N. Ns. Kilburn Football Club
 Royal Engineers (Chatham) Football Club
 Sheffield Football Club
 Wanderers Football Club
 Worlabye House (Baty's) Football Club⁹⁾

アソシエーションの競技規則がすみやかに広く採択されることは期待されなかった。アソシエーションの役員はアソシエーションの競技規則が広く賛成を得るのに成功しなかった。1866年のフリーメイソンズタバーンでの定期総会においてキルバーンクラブの代表が、アソシエーションの競技規則を充分固守しているのはクリスタルパレスとバーンズのクラブのみでキルバーンクラブはアソシエーションの競技規則でプレーするのは極めて困難であると不満を述べた。リンカーンクラブはアソシエーションから脱会したが、アソシエーションの競技規則に満足しなかったことは明らかであった。

しかしながら、ある重要な出来事が生じた。アソシエーションのメンバーとして初期に入会していたシェフィールドクラブのチェスターマンからの書簡が、テンプルのキングスベンチウエークにあるモーレイの事務所での、アソシエーションを形成しているクラブのキャプテンの会議において読みあげられた。

要約すると、その書簡はロンドンとシェフィールドクラブとの試合を提案していた。シェフィールドクラブはその時、フットボールアソシエーションの競技規則とは若干異なる彼等独自の競技規則を守っていた。バーンズクラブのウイリスはその申し出を受け、3月17日から31日のいずれかにバターシーパークにおいて11人制での試合を取り決めることになった。

そのようにして、フットボールアソシエーションによって行われる最初の代表チームの試合の取り決めが進み、そしてそれがその後、インターナショナルの舞台へと導かれたことを考慮すると価値あるものであった。

シェフィールドクラブとアソシエーションとの書簡のやりとり、そしてシェフィールドクラブの質問に対する回答において、アソシエーションは次の事実を指摘した。

(i) グラウンドは縦120ヤード、幅80ヤード。

(ii) ロンドンチームの服装は白のジャージーもしくはフランネルのシャツ、そして白のズボン。

(iii) ボールはリリーホホワイト製の no. 5。

(iv) 競技開始は午後3時、4時半に終了。

(v) 試合の通知は、フィールド紙、ベルズライフ紙、スポーティングライフ紙、そしてスポーツマン紙に送られる。

最終的に1866年3月20日にロンドン代表に選ばれたメンバーの名前がシェフィールドクラブに送られたが、最終的にプレーし、3月31日、バターシーパークにおいて2ゴール、4ダウン対0でシェフィールドクラブを破った(フットボールアソシエーションの競技規則のもとで)。ロンドンチームのメンバーに若干、変更があった。

当日のチームのメンバーは次のとおりであった。

LONDON

A. Pember (N. N. Kilburn) (Captain), C. W. Alcock (Wanderers), E. C. Morley (Barnes), R. D. Elphinston (Wanderers), A. F. Kinnaid (Wanderers), C. M. Tebbut (N. N. Kilburn), J. B. Martin (Crusaders), J. K. Barnes (Barnes), D. M. O'Leary, A. Baker (N. N. Kilburn), R. W. Willis (Barnes).

SHEFFIELD

W. J. Chesterman (Captain), H. W. Chambers, F. Knowles, J. Knowles, J. Swift, J. Denton, A. A. Dixon, W. Baker, J. C. Shaw, J. D. Webster, A. Wightman.¹⁰⁾

その同じシーズン、後にシェフィールドクラ

ブの競技規則のもとで、シェフィールドにおいてリターンマッチが行われ、そのようにしてロンドンとシェフィールドクラブのタイトルのもと歴史的な試合が開始されたが、それは19世紀末まで年に2回の対戦が継続された。

1867年、ペンバーに代わって会長になったモーレイのもと、これまで嚴重であったオフサイドの競技規則が、攻撃者とゴールラインの間に防御者が3名いるというチャターハウス校とウェストミンスター校の競技規則に一致させるよう改正された。

アソシエーションがロンドンとシェフィールドクラブのゲームによってすでに取り決められた例を持って、代表のインターカウンティの試合を組織化した。このことが諸々の州に与えた影響、そして州自体がゲームの伝播において果たした役割は測り知れないものであった。アソシエーションの競技規則のもとでプレーしているクラブの協力を確保したり、他のクラブを勧誘する目的を持ってアソシエーションの競技規則のもとでプレーされる州の試合を取り決めることが決定された。

アソシエーションの委員会が新聞でその考えを公表するよう決定したのは1867年9月であったが、その結果は新聞の次のパラグラフで表わされた。

4年に渡る論議と慎重なる熟慮ののち、フットボールアソシエーションの競技規則は、それが修正もしくは改正の余地がほとんどない形にまでなりました。ミドルセックス対ケイト、サレー連合のカウンティマッチにおいて競技規則を試してみるべきだとの強い要望がロンドン市内とそのまわりの主要なプレーヤーの多数によって表明されました。1867年11月2日土曜日にビューフォートハウスにおいてゲームが開催される予定です。¹¹⁾

決定した試合はミドルセックス対ケント、サレー連合であった。ミドルセックスはオルコッ

クが、ケント、サレー連合はグレアムがチームのキャプテンに任じられた。試合の日程は11月2日で場所はウォルハムグリーンのビューフォートハウスであった。代表チームが完全に確保され、ほとんど最後の瞬間になってグラウンドが撤回されるという不運が生じたが、それはあらゆる意味で成功を取めた。フットボールの最初の州対抗の試合として歴史的になった。その結果は多大で、フットボールアソシエーションへの関心を増大させ、1868年1月25日、サレーとケントの間で第2回目の州対抗の試合が決定された。サレーのキャプテンをグレアムが再び務め、ケントのキャプテンは、その時ケンブリッジ大学のトリニティカレッジのキナードが務めた。両方の試合ともゴールがまったくなされず引分けで終了した。真に公的な重要性を持つ最初のフットボールの試合としてベルズライフ紙(Bell's Life)に掲載された次の論説は興味深い。

ミドルセックス VS サレー、ケント連合

正真正銘のカウンティマッチはフットボール界においてまったくの新たな経験となった。先週土曜日、宣伝されたミドルセックス対サレー、ケント連合の正式に発足した試合を見るためにビューフォートハウスに殺到した数について測り知れないものがあった。彼等がビューフォートハウスに到着するとすぐにラネラフ卿(Lord Ranelagh)とアマチュアアスレティッククラブの事務局長との間に説明しがたい意見の違いがあった(この理由により彼等はグラウンドを去った)。試合の主催者が窮余の手段として、余儀なくバターシーパークの荒地を求めた時に彼等が感じた失望に心から同情するものです。3時過ぎすぐに相手チームの代表者が大挙して集まり、ゲーム開始、3時半が決まり、その必要な準備のすべてが決められた。ミドルセックスは不運

にもトスに敗れ、そのために風下でのプレーを余儀なくされた。；しかしながら、時間の損失なしに、ミドルセックスのキャプテンのキックオフによって試合が開始された。グラウンドは極めて問題ある状態にあり、フットボールのためには全体的に適していなかった。芝は5～6インチで極度に深く、ドリブルのすべての試み又は多くの有名なプレーヤーに期待する素早いプレーの妨げとなった。動きにおいて多大の困難を受けたにもかかわらず、ゲームは最初から終りまで衰えのない快活さで運んだ。最初の30分は、両チーム、極めて均衡していた。ボールは双方のプレーヤーの連続ラッシュで後方そして前方に行きかい、チームの優劣の決定が困難であった。ゲーム後半、ミドルセックスのフォワードのプレーヤーが決定的展開を見せた。サレー、ケント連合陣、マーチン (J. B. Martin) とケネディ (G. G. Kennedy) が巧みにボールをさばき、コッカーレル (J. Cockerell) とウィリス (R. W. Willis) が完璧に守っていたゴール前で、しばらく徘徊したままであった。芝が深いのはディフェンスに有利であるのはまったくの当然で、ミドルセックスのプレーヤーの熱意は少しも役立たなかった。ディフェンスのキーパーの判断よいキックでボールがローデス (P. Rohdes) とソーントン (P. M. Thornton) に運ばれ、彼等は見事な走りミドルセックスゴールを大ピンチに陥れた。ローデスは素晴らしいスピードでミドルセックスの最後のゴールキーパーを抜き去り、相手ゴール前にボールを押し進めたが、ゴールに失敗した。すぐにゲームは再開され、この時からゲーム終了までサレー、ケント連合は自陣内でミドルセックスに攻めたてられたが、ミドルセックスが決定的結果を得ることができなかった。；そして、時間になった時、いずれの側もゴールを得ることな

く、試合は引き分けで終了した。この新たに開始された試合は極めて興奮するゲームで、決定的な成功を収めた。従って、冬季に、様々な州の間での友好的試合が開催される事を期待するものである。最近、フットボールは巨大な規模にまで成長してきたので、増大しているタレントを世に出すため、何か普通のクラブ以上の試合が必要とされる。この最初の試合に出場したプレーヤーの名は、主催者たちが——フットボールアソシエーションの役員であると告げられる——パブリックスクールもしくは特別な派閥を顧慮せずに最上のプレーヤーを選ぶ役割を果たすための公平に望む友好な保証であり、彼等が作業を始めた効果的な方法を祝わなければならない。ミドルセックスで最も異彩を放ったプレーヤーはケネディ、ネピアン (C. E. B. Nepean) そしてディクソン (W. J. Dixon) であった。；サレーとケント連合ではローデス、ソーントン、グレアム、そしてゴールを守ったコッカーレルやウィリスなどが素晴らしい仕事をした。次のがプレーヤーのリストである。；——Middlesex : C. W. Alcock (Wanderers), A. Baker (N. N. 's), W. J. Dixon (Old Westminster), G. G. Kennedy (Harrow Chequers), G. H. Lee (Westminster School), J. B. Martin (Crusaders), C. E. B. Nepean (Charterhouse School), J. C. Smith (Westminster School), F. W. Wylde (Old Westminster), H. Emmanuel (N. N. 's), R. C. Thornton (Wanderers), Surrey and Kent ; J. Cockerell (Crystal Palace), W. J. C. Cutbill (Crystal Palace), C. C. Dacre (Clapham Grammar School), R. G. Graham (Barnes Club), J. Kirkpatrick (Civil Service), W. B. Money (Harrow Chequers), J. K. Barnes, P. Rohdes (Wanderers), F. B.

Soden (C. C. C. 's), P. M. Thornton, R. W. Willis (Barnes Club)。マナーは事故のためケンブリッジを離れることができず、ソーントンはグラウンド変更により、間に合わず、ゲームに出場することができなかった。¹²⁾

1868年1月25日、次いでこれらインターカウンティの第2回目の試合が、今回はケントとサレーの間にプロムトンの西ロンドンのランニンググラウンドにおいて、12人制で行われた。1時間15分の競技の終りにゴールがまったくなされなかったため、15分間の延長ののち、第1回目の試合のように得点がなくゲームは終了した。この第2回目の試合のプレーヤーのリストは次のとおりである。Kent : A. F. Kinnard (Trinity College, Cambridge) (Captain), E. Lubbock (West Kent), J. B. Martin (Wanderers), F. G. Paulson (Charterhouse School), E. O. Berens (Crusaders), A. Baker (N. N'S), W. J. C. Chamberlain (Crystal Palace), P. Norman (Old Etonian), E. A. Hoare (St. John's College, Cambridge), S. T. Goldney (Old Harrovian)。Surrey : R. G. Graham (Barnes Club) (Captain), J. Cockerell (Crystal Palace), G. C. Dacre (Clapham Grammar School), P. Rohdes (Warders), H. Richardson (Reigate Hill Club), F. B. Soden (C. C. C., Clapham), J. E. Taylor (C. C. C., Clapham), A. Tompson (Wanderers), R. W. Wills (Barnes Club), J. K. Barnes (Barnes Club), E. C. Morley (Barnes Club), W. Collins (Barnes Club).¹³⁾

この実験が成功であったのは、新聞による「最近、フットボールアソシエーションによって公表された競技規則にプレーヤーの全集団が大いに満足しており、競技規則の簡明さと有効性が広く是認されることとなった。」¹⁴⁾との報告によって明らかである。

従って、アソシエーションの将来がその競技

規則を全面的に受け入れられることに極めてかかっていたのは明らかであった。アソシエーションはその競技規則に頼っており、その初期の普及においてオルコック、キナードそしてモーレイなどの際立った人物が指導的立場にあったのは多分に幸運であった。しかしながら、この点において、ゲームの時間がまだ決まっていなかったばかりか、1チームのプレーヤーの人数も決まっていなかったのは興味深い。ケントとサレーは1時間15分そして延長の15分を1チーム12名でプレーした。

1868年10月、アソシエーションが、アソシエーションの競技規則を普及させる方針を継続させる正当化を感じたことが委員会の決定によって示されたが、その主旨は次のとおりであった。

- (i) There should be a continuance of the county matches commenced last season.
- (ii) That one match —Middlesex v. Surrey— should take place at Barnes on November 14th and that Messrs. Alcock and Dixon should select the Middlesex team and Messrs. Graham and Kirkpatrick the Surrey eleven.
- (iii) That the Secretary issue a circular requesting members of the Football Association wishing to represent their clubs in the match to send their names to one of the above for selection, and to advertise the match.
- (iv) That the qualification be birth or residence during the last three years in the county.
- (v) That the Secretary write to the University of Oxford for the purpose of arranging a match 'University v. Middlesex.'¹⁵⁾

1868年、事務局長のグレームは英国のすべてのフットボールクラブに次の回状を発送し、そ

の回答を得た。

フットボールアソシエーション, 1868

拝啓 貴殿にはアソシエーションに注目していただきたく存じます。アソシエーションは現在その存在が4年近くになります。その競技規則については首都の極めて経験豊かなフットボール選手が細心に渡って検討して参りました。度重なる会議、そして辛抱強い労苦のうち、ただちに簡明かつ容易に採択できる競技規則の起草の運びとなりました。それらは必要のない危険性とは限りなく程遠いもので、しかも、世間受けしてきた多岐に渡るあらゆるゲームにおいて極めて合理的で興味深いものすべてを残しております。私はここにおいて極めて望ましい大目的でありますすべての試合を可能にする統一規則の作成において貴殿のクラブのご協力をお願いするものです。貴殿のクラブがアソシエーションに喜んでご助力いただけるものであれば、次の総会において競技規則の改正を提案する権能を有することを含めて、アソシエーションのメンバーに貴クラブの加盟を委任していただけでしょ

敬具

フットボールアソシエーション
事務局長 R. G. グレアム¹⁶⁾

この回状はアソシエーションの役員の考えと目的を適切に記述している。その回答は、特に重要なパブリックスクールのウエストミンスター校とチャーターハウス校が支持するもので満足すべきものであった。事務局長のグレアムのもとに多くの回答が届き、それに対し質問、助言がなされた。新しいクラブがその独自の競技規則を作成するために、そっくりそのままか、もしくは手引きとして利用するためにアソシエーションの競技規則のコピーを欲した。これら競

技規則のコピーは必ず送付され、すべての書簡は国中に細心に回答するものであった。一例として、ロイド (Ernest M. Royds) はロックデールから、その町においてフットボールのクラブの設立が見込まれており、アソシエーションの競技規則を拝見したいとの書簡をアソシエーションにあてた。スタージス (J. R. Sturgis) はイートンカレッジから書簡でイートンはすべてを考慮してアソシエーションの加盟を提案したが、アソシエーションの競技規則それ自体に反対するものではないがあまりにも不明確で単純すぎるという結論に達したと述べた。イートンの競技規則はアソシエーションの競技規則と極めて類似していたので、必要が生じたらアソシエーションの競技規則でのプレーが可能であった。彼はアソシエーションが主要な協会であり、フットボールを発展させていく協会であると考えていると述べることによって結論づけたが、彼はフットボールのゲームの利益のためにはパブリックスクールに存在した様々な形態をとどめることを考えた。

ロスコー (Edward S. Roscoe) はルードレイカレッジ (Rudley College) から書簡で、すべての学校が同一の競技規則でプレーすることを心から望んだが、ルードレイカレッジはアソシエーションに加盟することができないことを残念に思うと述べた。彼はイートン、ハーロー、ラグビーが彼等独自の競技規則を捨て去れば、他の学校も彼等の例にならうかもしれないと述べることによって締めくくった。ラグビーのエリス (F. Ellis) はアソシエーションの競技規則はラグビーの競技規則とまったく異なるとして加盟を辞退した。

フットボールアソシエーションが承認された協会として確立したのは、実際には1868年からであった。回状のすべての回答の結果、アソシエーションのメンバーのリストが3倍になったが、それは次のクラブから構成された。

The Football Association

List of Members, Jan. 1, 1868

Amateur Athletic Football Club
 Barnes Football Club
 Bramham College (Yorks) Football Club
 Brixton Football Club
 Charterhouse School Football Club
 C. C. C. Clapham Football Club
 Civil Service Football Club
 Clifden House (Brentford) Football Club
 Cowley School (Oxford) Football Club
 Crystal Palace Football Club
 Donington Grammer School (Lincolnshire) Football Club
 Forest School Football Club
 Hitchen Football Club
 Holt (Wilts) Football Club
 Hull College Football Club
 Kensington School Football Club
 Leamington College Football Club
 London Scottish (Rifles) Football Club
 Milford College (South Wales) Football Club
 N. N. S. Kilburn Football Club
 Reigate Football Club
 Royal Engineers (Chatham) Football Club
 Sheffield Football Club
 Totteridge Park (Herts) Football Club
 Upton Park Football Club
 Wanderers Football Club
 West Bromton College Football Club
 Westminster School Football Club
 Worlabye House (Roehampton) Football Club¹⁷⁾

実際にアソシエーションに加盟したのはこの数であったが、事務局長のグレアムは往復書簡を通じてアソシエーションの競技規則でプレーしている他の数多くのクラブがあることに気付

いていた。

結

1863年10月26日、ロンドンのフリーメイソンズタバーンにロンドンとその近郊の11のクラブの代表が集まり重要な会議が開催された。この会議においてフットボールアソシエーションが設立された。この会議そしてその年、後に開催された会議において競技規則についての長い討議があった。討議された中心課題はボールを持って走ることとハッキングをめぐるもので、ランニングゲーム支持派はこれこそがフットボールの真髄であると主張し、ドリブリングゲーム支持派はこれを危険きわまりないプレーであると反論し、最終的にはアソシエーション提案の競技規則からボールを持って走ることとハッキングについてが削除された。1863年12月8日の第6回目の会議のあとフットボールアソシエーションの競技規則が公表された。

アソシエーションの競技規則が広く賛成を得るのに成功せず、競技規則がすみやかに、広く採択されることはなかった。アソシエーション設立の3年後の1866-7年のシーズン初めには、アソシエーションに加盟していたのは10のクラブであった。1866年、すでに独自の競技規則を持っていたシェフィールドとフットボールアソシエーションを代表するロンドンの間で試合が行われた。1867年、アソシエーションの競技規則のもとミドルセックス対ケント、サレー連合の間で州対抗の試合が行われた。1868年、フットボールアソシエーションの普及発展のため、英国のすべてのフットボールクラブにアソシエーション加盟を求める回状が出された。回状すべての回答の結果、アソシエーションのメンバーが1866-7年のシーズンの3倍となり、フットボールアソシエーションが承認された協会として確立したのは、実際には1868年からであった。

- 1) R. G. Graham, The History of the Football Association, The Badminton Magazine of Sports and Pastimes, vol. VIII, 1899.
- 2) The Football Association, The History of the Football Association, the Naldrett Press, 1953, p. 23.
- 3) N. L. Jackson, Association Football, George Newnes, 1899, pp. 32-33.
- 4) N. L. Jackson, *ibid.*, p. 35.
- 5) N. L. Jackson, *ibid.*, p. 35.
- 6) N. L. Jackson, *ibid.*, p. 35.
- 7) The Football Association, *ibid.*, pp. 26-27.
- 8) N. L. Jackson, *ibid.*, p.p. 37-38.
- 9) R. G. Graham, *ibid.*, p. 79.
- 10) The Football Association, *ibid.*, p. 42.
- 11) The Football Association, *ibid.*, p. 43.
- 12) R. G. Graham, *ibid.*, pp. 83-85.
- 13) R. G. Graham, *ibid.*, pp. 85-86.
- 14) The Football Association, *ibid.*, p. 45.
- 15) The Football Association, *ibid.*, p. 45.
- 16) R. G. Graham, *ibid.*, pp. 80-81.
- 17) R. G. Graham, *ibid.*, p. 82.